

関西電力(株)新本社ビル食堂施設厨房の事例紹介 (実践的 PR 拠点を目指した全電化厨房)

荒牧 次郎 (あらまき じろう) 関西電力(株) 法人営業部 大口営業グループ

1. はじめに

2004年12月、大阪市北区中之島3丁目に関西電力(株)新本社ビルとなる「関電ビルディング」が竣工した。特に食堂施設では、電化厨房の特性を活かしながら、“安全でおいしく料理を提供する食堂施設”をコンセプトに施設計画を行った。同時に、電化設備の実践的PR施設として活用する構想も含めている。

以下に、今回計画した、電化厨房施設の特徴を最大限に生かすコンセプトと厨房の概要を紹介する。

2. 提案型食堂施設と業態構成

本計画のプロジェクトスタッフ、また食堂運営に携わるエル・スエヒロに対し、与えられた命題は、就業者が求める福利厚生施設作りと、電化厨房の推奨施設としての構築であった。従来、食堂の業態構成は事業者主体となりがちであるが、本計画の初期段階では、日々の就業者喫食ニーズを喚起させる施設とは何かを構築する為、就業者への昼食趣向に関する調査と喫食ニーズのアンケート分析を行い、各業態構築への基礎資料とした。食堂施設の概要は、19階にランチ・アラ

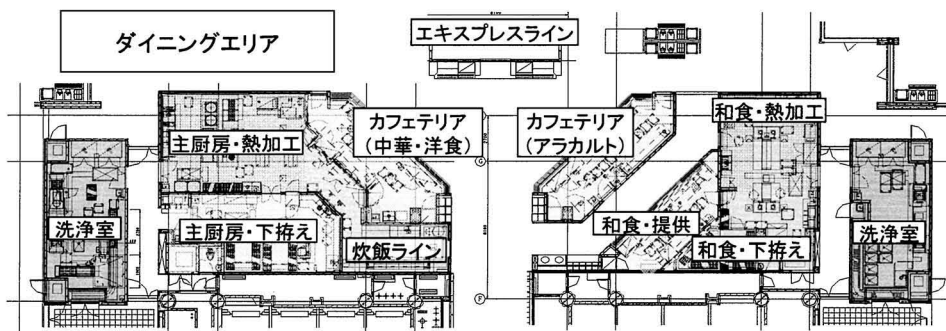


図1 19階カフェテリアラインA・B、和食提供コーナー

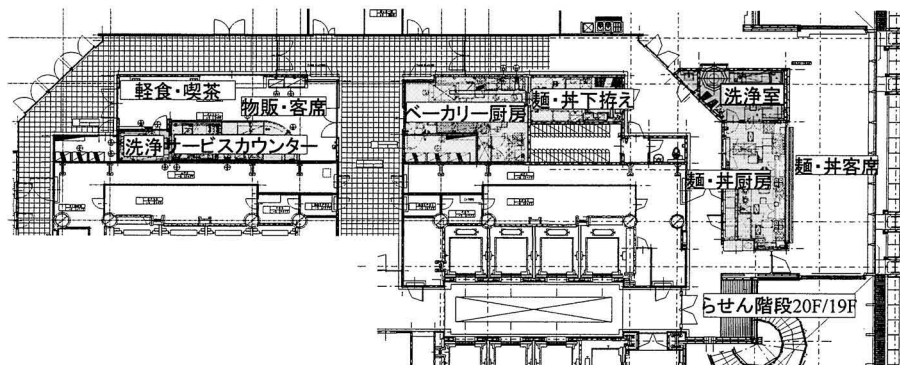


図2 20階：丼麺・ベーカリーコーナー